

2013年（平成25年）度

# 伊野地区自治協会活動報告

## －成果と課題－

### 1 農業と食文化をつなげた地域づくり－栽培・食べる・売る・笑って長生き－

#### (1) 伊野農業懇話会で伊野農業の課題を検討し対策を考える

- ①出雲市が伊野地区で実施した農業アンケートの結果について検討する会を開催した。アンケートでは、担い手がおらず、農業をやめたい人が多数を占める深刻な実態が浮きぼりになった。
- ②今後、稲作と農地対策について懇話会内に小委員会を設け、担い手育成や耕作放棄地について検討することが求められる。
- ③国の農業政策が大きく転換するので、制度の変更について学ぶ機会を設けることが必要である。

#### (2) 中山間地域の農業対策

- ①農水省の「中山間地域等直接支払制度」を活用して「上伊野農業再生プロジェクト」が立ちがり、活動を開始した。
- ②下伊野地域については「伊野農地保全の会」（農水省の「農地・水」事業）が用水路改修など、献身的な活動を続けているが、制度変更に伴い事業の見直しが求められている。
- ③シカ・イノシシによる被害が増大し始めたので、上伊野農業再生プロジェクトと自治協会が共催で、県・市の担当職員を招いて研修会を開催した。今後も研修会を続けるとともに、電気柵やワイヤメッシュの設置など具体的な対策を進めていく必要がある。

#### (3) 産直市立ち上げを検討する

今年2月、産直市立ちあげ準備会が発足し、3月には先進地視察を行うなど、開催に向けて動き出した。26年度の早い時期に産直市を開催し、定期化できるように努める。

#### (4) 豊かな食文化を広め、健康で長寿の里をつくる

ハム作り(6回)や味噌づくり(2回)などに多くの参加者があった。ハム作りは特に好評で○回、開催した。「食」は地区住民の関心が高い分野なので、食と農、食と健康などをテーマとした活動を一層充実させたい。

### 2 少子化対策－子どもを育てるなら伊野で－

#### (1) 伊野小学校再編（統廃合）についての検討

- ①これまでに、検討委員会を5回開催し、論点を整理した。また、複式教育を行っている奥出雲町立亀嵩小学校と学校が無くなった大田市井田地区を視察した。
- ②検討委員会は、議論の到達点を「中間報告書」としてまとめた。学校と地域視察の結果についても「報告書」としてまとめた。今後、両報告書をもとに保護者や町内会等で話

し合ってもらい、26年度末の代議員会で統合するかしないかの決定を行う。

## (2) 伊野バージョン（島根大学教育学部学生の活動）支援

- ①「伊野の自然を舞台に子どもの遊びをつくる」というねらいをもって、今年度スタートした伊野バージョンは、秘密基地づくり(6月)、どろんこフェスタ(8月)、島大大学祭参加(10月)、野菜バル(2月)を開催し、多くの小中学生や父母・地域住民の参加を得た。
- ②イベント開催だけでなく、コミセン事業への参加や伊野小学校の教育活動への参加など、日常的な活動も地域に対して大きな貢献をした。
- ③伊野バージョンを継続させるために次世代育成を行うとともに、伊野バージョンが伊野を変える力になるための活動を工夫する必要がある。

## (3) 子育て支援事業

コミセン事業として行っている子育て支援事業(わくわく広場、書道教室、スキー教室等)や、体協事業として行っている陸上教室、サッカークラブ、バレーボール、社協事業として行っているしめ縄づくり等、地域の子育て支援活動が活発に行われた。

## (4) 小中学生の学力向上支援（サマースクール、ウインタースクール）

夏休み中、児童生徒の勉強の場を提供するサマー・スクールを伊野バージョンの協力によって2年連続で開催した。参加児童生徒数は〇人だった。中3の入試対策を目的とするウインター・スクールの参加者は〇人だった。

## (5) 伊野児童館（ひだまりの家）の今後の役割と活動について検討

児童館は保護者にとっても定住化にとっても重要な役割を果たしている。保護者・住民のニーズに応える役割をいっそう発展させる方法を検討したい。

## 3 安心・安全の地域づくりー助け合いの地域づくりー

### (1) 原子力災害に備えるインフラ整備

- ①斐川一畑大社線(地合工区)の拡幅工事は少しずつ進んでいるが、地滑り発生のため、一部区間の計画見直しが必要になり、工事が中断している。早期完成を求める要望書を提出した。また、出雲県土整備事務所の現地視察(12月)が実現した。
- ②災害時の通信手段となる災害時特設公衆電話がコミセンに置かれた。標高掲示板が伊野地区内に30箇所を設置された。放射能を測定する線量計が1台コミセンに配置された。また、Jアラートを各戸に伝えるために、平田CATVが工事を行う予定である。

### (2) 防災体制の見直し

- ①出雲市の防災訓練が台風で中止になったため、伊野地区災害対策本部を開催することができなかった。来年度の早い時期に災害対策本部役員レベルで、土砂災害対応について検討する予定である。
- ②出雲市の原子力災害対応避難訓練計画が策定された。計画は、6年ごとに避難訓練を行うことになっている。そのため、伊野地区で毎年行ってきた原子力災害対応避難訓練を実施できなくなったので、今年度は島根原発の視察研修を行った。

③市防災安全課が津波対応のワークショップを地合町で開催し、避難マニュアルができあがった。

**(3) 生活環境道路改良事業・生活環境下水路改良事業 (H26～H28)**

土木委員会が地区内を調査して要望書をまとめ、市に提出した。その結果、道路が6箇所、水路が2箇所採択された。

**4 にぎわいのふる里づくりー出会いがいっぱいある交流の里ー**

**(1) 伊野地区体育祭や文化祭、夏祭り (8月13日) 等を成功させる。**

多くの参加があり、盛大な行事となった。

**(2) ほたるの里づくりの推進**

上伊野農業再生プロジェクトが周辺農道の草刈を行った。また、コミセンがほたる見学会を企画したが雨天中止となった。

**(3) ソーシャルラーニング (山陰5大学連携事業) の受け入れ (8月23～25日)**

学生20数人が伊野地区の調査や聞き取りを行い、発表会を開いた。若者視点で伊野をとらえた発表が好評であった。次年度も受け入れが決まっている。

**(4) 他国・他地域との交流**

①伊野サッカークラブが愛媛県久万高原町の児童・保護者を招いて交流を深めた。

②伊野こみこみサロンがフィンランド人とロシア人を招いて講演会を開催した。また、コミセンがフィンランドの料理教室を開催した。

**(5) 伊野の魅力 (自然・人・行事等) について積極的に情報を発信する。**

伊野バージョンや一畑薬師初詣ランなど伊野地区の行事が新聞やCATVで報道されることが多く、伊野の知名度が上がった。今後、伊野コミセンのホームページを充実させるなどインターネットを活用した情報発信が求められる。

**5 定住対策ー伊野で暮らしたい人をつくろうー**

**(1) 空き家調査を行い、空き家の活用について検討を開始する。**

出雲市防災安全課が空き家調査を行ったが、今後、伊野独自の調査を行う必要がある。

**(2) 住民要求調査**

実施しなかったため、次年度の検討課題とする。

**(3) 伊野地区の人口や世帯状況などのデータベースを作成する。**

防災やまちづくり対策のためにもデータベースの作成が必要なので、次年度の完成をめざしたい。

**(4) Iターン・Uターン者を迎え入れる方策を検討する。**

具体的検討に至らなかったため、次年度の課題とする。